

年間第24主日の説教

金 大烈 神父 2011年9月11日(日)

《残り1か月の時間に ~毎日実践しましょう~》

先週、皆様に宿題を出しました。宿題の内容は、「若しあなたの生が、1か月しか残っていないとすれば、何をしたいのでしょうか。必ずしなくてはならないことを10個探して紙に書いてみてください。」というものでした。その時、「私も考えてみて、感じたことを来週の日曜日に皆様に紹介します。」と申しあげました。覚えていますか。その話をする前に、今日の福音(マタイ 18・21 - 35)がとても大切なものでしたので、先ず福音について申し上げたいと思います。

今日の福音は、1万タラントンのお金を借りた人の話です。1か月くらい前にも平日ミサで申し上げた内容ですが、1タラントンのどのくらいの金額かご存知ですか。1タラントンは、6000デナリオンです。そして1デナリオンは、その当時、普通の人が一曰一生懸命に仕事をして儲けることのできたお金です。計算してみますと、1万タラントンは16年間働いて得られるお金になります。考えられますか。そして、もし1日の最低賃金が5000円と考えれば、この1万タラントンという額は、3000億円になります。このような大金を借りた家来に、主君は借金を帳消しにしてあげたのです。それなのにその家来は、100デナリオンを貸した仲間に、首をしめながら「返せ」と叫んだのです。

このたとえ話は、私たちが神様から赦された内容、神様からいただいた愛が限りないことを意味しています。いつも赦され、いつも愛されているのに、とんでもない小さなことに腹を立て、命をかけて人を憎んでいることをイエス様が叱っていらっしゃるのです。

「私は神様からそんなにももらった覚えはありません。」とおっしゃる方もいるかもしれませんが。しかしそれは違います。ただ私たちが感じていないだけです。

テレビに出る人をタレントと言いますね。これは、タラントンから来た言葉です。英語でもタレントは、才能を意味します。そして、日本語にも同じような言葉があります。神様からいただいた宝物を『賜物』と言います。人間からもらったものは『賜物』とは言いません。神的な存在からいただいた力を『賜物』と言います。

私たちはみんな、このような賜物、数えきれない、限りないタラントンを持っています。そのタラントンは、「愛する力、愛する能力」です。しかし私たちは、その能力を使いきれずにこの世を終えてしまうことが、ほとんどです。今日の福音をとおしてそれをもう一回考えてみましょう。

皆様は全員、神様に1万タラントン以上の借金があります。返さなければいけません。それを覚えましょう。

では、宿題の「若しあなたの生が、1か月しか残っていないとすれば、何をしたいのでしょうか。」

必ずしなくてはならないことを10個探して紙に書いてみてください。」の話に入ります。私は、いくら考えても10個を考えることができませんでした。一生懸命考えて、やっと6個考えつきました。それを紹介してみます。

1. 赦しの秘跡

おそらく皆様も同じだと思います。もし、残された人生が1か月しかなかったら、カトリック信者ならばやはり「罪を降ろさなければいけない」と思い、赦しの秘跡に与ろうと考えるでしょう。普段は恥ずかしくて「私が知らない罪もお赦しください。」という言い方しかできない罪もあるでしょう。しかしこの日は必ず、覚えている全ての傷、生まれてから今までに話せなかった全ての罪をありのまま話し、清算したい気持ちになると思います。

2. 償いの時間

1か月だけ残ったら、私が個人的に一番時間を使いたいのは、償いの時間です。今までたくさんいただいたのにも関わらず、滅茶苦茶に生きてきた人生を反省しながら、償いの時間を持ちます。そして、悪かったことに対して何かしたいと思います。

3. ミサと祈りに集中する

1か月間、できる限り完全にミサと祈りに集中します。今までできなかったことに100パーセント集中して祈ろうと頑張ります。

4. 和解（赦し合い）

和解しなければいけない人を残して逝くのは、悲しいことです。神様に言い訳もできません。1か月あれば、時間をとって、和解しなければならぬ人に会いに行きます。幸いなことに、私は今まで、どうしても赦せない人はいませんでした。少し憎しみは感じて、時間が経つと自然に溶けてしまいます。その人が憎くて、眠れないほど心を痛めた経験は、一度もありません。それは、感謝すべきことでしょう。しかし、私が赦しを求めなければならぬ人はいると思います。私のことが大嫌いで、私のために人生が崩れてしまったという人はいるかもしれません。その人を探します。そしてひざまずいて、赦しを求めます。「私はそんなつもりはなかったけれど、あなたにこのような傷を与えてしまい、あなたが私を憎むようにしてしまった。本当に悪かった。赦してほしい。」と真面目に赦しを求めます。

5. 感謝の表現

私たちは大体、あまり感謝の表現をしないで済ませてしまっています。一番身近なことでは、親に感謝をしません。「お父さん、お母さん、感謝します。」という言葉の口にしません。ただ「か・ん・しゃ・し・ま・す」という指で数えられほどの言葉なのに、それを声に出せないのがほとんどの人でしょう。よく周りを見回してみれば、感謝すべきことだらけです。それなのに、私たちは本当に心をこめて「感謝します。」と言っているのでしょうか。私が言いたいのは、お店の人がお客様に対して言うような「ありがとうございます」ではありません。今まで感謝の気持ちを伝えられなかったたくさん

の感謝すべき人々、感謝すべき全てのことに感謝を表現します。そのために時間をとります。

6. 家族・友だちとの時間

その時、どのような家族、どのような友だちが残っているのか分かりませんが、家族や友だちのために、今までの絆に感謝しながら、分かち合いの時間を持ちたいと思います。そういうことのために頑張ります。

このような6個を考えました。もちろん小さなことも数えてみれば、10個以上になります。たとえば、私の所有物がどのくらいあるのか分かりませんが、それらを必要な人にあげるとか、そういう細かいことはたくさんあります。しかし、私が大きい項目として選んだのはこの6個だけでした。たぶん皆様も考えられたら、同じようになると思います。

そして、今回は、期間を1か月に限定して黙想しましたが、よく考えてみれば、この6個は毎日出来ることです。今でもできることです。そして、しなくてはいけないことです。今はしないのに、残りの時間が1か月になったらします、というもおかしなことではないかと思えます。

この6個の例は、毎日できるように頑張らなければいけない内容です。それをもう一回考えてみましょう。もしこのような生き方ができれば、どんなことがあっても、「私は幸せだ。条件なしに幸せだ。」と言えるのではないかと思います。

ありがとうございました。